



書は心画たり

教育長 津野庄一郎

「書は心画たり」という言葉があります。「書の表現は、そのままその人の心をあらわす」という意味です。

1月18日（土）関川村村民会館大ホールで「第5回 せきかわ新春競書大会」（担当：坂爪淳教育指導員）が開催され、関川小・中学生33名が参加しました。指導者の鈴木政信先生は、「中心を整えること、太く強く大きく書くこと、字と字の間を同じくすること」の3つに留意し、心を込めて書くようにと話されました。

子どもたちは、関係者や保護者が見守る中、与えられたスペースで書道の道具を整え、渡された5枚の書き初め用紙を使い、黙々と白い紙に自分の心をぶつけながら、一枚一枚作品を仕上げていきました。

関川村は小学校低学年から中学校まで、「書写」の時間を大切にした取り組みを進めています。そのことを通して生活や学習の基盤を整え、発達段階に応じた「書く力（書道の技能）」を磨き、集中力や精神を高めることを目指します。ICTの活用が当たり前の時代だからこそ、日本古来の伝統文化のよさを再認識し、心豊かな人づくりを推進していきたいと考えています。

青少年育成関川村村民会議、関川村地域学校協働本部、関川村地域子ども応援隊の皆様、子どもの挑戦に背中を押してくださった保護者の皆様に、心から感謝申し上げます。